キラリ★八代人

温もりと思いを伝える　絵だより

岸部　孝子さん

八代絵だよりの会　代表　（本町３丁目）

パソコンやメールの普及で、手書きの便りをすることが少なくなった昨今。手書きの温もり、感性やオリジナリティを表現できる「絵だより」が注目されています。

もともと絵が好きだったという岸部さんは、いろいろな絵手紙コンクールで入賞したことが弾みになり、本格的に絵だよりを始めました。「絵だよりの良さを一人でも多くの人に知ってもらいたい」と平成 11 年に絵だより教室をスタート。現在では会員数が 103 人になり、本町３丁目のアトリエや麦島の古城館（シルバー人材センター）、坂本公民館などで、会員と一緒に作品づくりに励んでいます。

画仙紙や葉書などに描くことが多い中、地元八代にすばらしい和紙があることを知ったのは６年前。テレビで紹介された、厳寒の朝に紙を漉く宮田寛さんの姿に感動し、翌日、宮地町の宮田さんの工房を訪ね、手漉きや和紙の話を聞きました。「仲間と宮地和紙にたくさんの絵を描いて、いつの日か博物館で発表したい」と思い始めたそうです。早速、宮地和紙を入手し、絵だより制作を始めました。和紙の風合いを出すため刃物を入れず水を含んだ筆で切り裂いたり、描く素材によってにじませたり胡粉（ごふん）を塗ってにじまないようにしたり、文字を硯（すずり）で摺った墨で描いたり、和紙の特徴を生かした作品づくりに工夫を重ねました。

今年４月９日から 21 日まで市立博物館で開催された「第４回大絵だより展」の副題は「宮地和紙に魅せられて」。６年前の思いが実現しました。全会員が出品した作品展には、12 日間で市内外から 4,140 人が来場。「心がほっこりする作品ばかりで優しい気持ちになりました。和紙のあたたかさがさらにそうさせるのでしょうか」「作品に吸い込まれ涙が出ました」などの感想が寄せられました。

「励まされたり、感動したり、絵だよりにはたくさんのドラマがあります。これからも温もりと思いが伝わる豊かな絵だよりを描いていきたい」と岸部さんは語ります。

▲絵だより教室で筆の使い方を指導する岸部孝子さん

目　次

Table of Contents

2013.JUNE　No.102

3　八代市のお金の使いみち
7　市民プール７月からオープン
8　歯と口は健康のカギ
9　集中豪雨に備えよう
10　自主文化事業
12　八代市職員募集（前期日程）
13　外部評価委員を募集
14　くらしの情報
16　市民カレンダー
18　くらしの情報
24　広告
28　まちのわだい
　印鑰神社春季大祭 鮒取り神事
　東陽小学校開校式
　フードバレー構想実現に向け推進組織設立へ
　龍峯小学校 藤棚給食
　「八代い草音頭」で活性化を
　100 歳おめでとうございます
　「人権の花」種子伝達式
　プロ野球・ウエスタンリーグ公式戦
　八代うまかもん市
　八代ちびっ子カーニバル
　八代亜紀絵画コンクール
　大島干潟観察会
31　伝言板
32　平家いずみ お茶まつり